

■ 令和7年度（2025年度）北海道美唄養護学校 第2回学校運営協議会

- 日時 令和7年（2025年）11月27日（木） 9時55分～11時30分
場所 北海道美唄養護学校 会議室
委員の出席：前頁参照 事務局出席：事務長・教頭・各学部主事・寮務主任
ア 辞令交付
イ 委員・事務局の紹介（自己紹介）
ウ 各学部の教育課程及び教育活動（各部主事）及び寄宿舎の生活について（寮務主任）
・各部の地域の教育力を活用した学習活動
　外部講師の活用～アルテピアッザ美唄職員によるキャンドルづくり
　活動の積み重ねによる成果の拡大～イベント開催のため多数制作の必要性（双方に有益）
　地域の施設利用～事前の打ち合わせからの御配慮・御協力
　移動手段の提供～市民バス・美唄市教委のバスの利用（支援）
　作業学習等の資材や技術指導の提供
　キャリア教育～職場見学・職場体験等
　防災教育～段ボールベットの設置や簡易ベッドの体験（市防災コーディネーター）
　寄宿舎～生活の場としての地域を感じる機会の設定（商業施設・温浴施設の利用や
　　地域のサークルなどとの交流）
・地学協働推進組織との連携による教育活動による地域への貢献
　少子化による人材確保の困難化～特別支援学校の児童生徒を地域貢献の担い手に
　「ありがとう」と言える人、言われる人の育成～地域とwin-winの関係づくり
　「防災教育」を地学連携のきっかけに
・地域の方々への学習の成果を知っていただけの機会を有効活用
　市民ふれあい祭り等での掲示物や作品展示による紹介
　～週末開催のため、児童生徒の実際の参加が難しい。
　町内会解散による地域のコミュニティーとしての役割を担えないか
　～避難所として使用するとき、学校などの施設を初めて目にするよりも少しでも知っ
　　てることの大切さ・普段からのつながりを大切にしたい。
　～協議会に地域住民代表として町内会の方々も加えたい。
　～集落支援員（総務省事業）の活用（美唄市18名）
・地域としては、学校側からの依頼があると関わりやすい。
・私が以前勤務していた中部地方では、防災教育が特別支援学校でも非常に重視されて
いました。学校が避難所として利用されることを踏まると、地域の方々に施設を
知ってもらう取り組みはとても重要だと思います。こうした活動を授業に組み込むこ
とで、防災の意識を高めるだけでなく、児童生徒にとっても実践的な学びの場になる
のではないでしょうか。
・知的障害教育の現場では、「各教科等を合わせた指導」について、さまざまな考え方
があります。各教科等を合わせた指導には、児童生徒の生活や学びの文脈に沿った学
習活動を構成・展開しやすいという特徴があります。授業では、知識を教えるだけ
なく、体験を通して理解を深める工夫が求められます。
・美唄市で今年度「地域おこし協力隊」発足。移住者に対する支援を考えているが美唄
養護学校とのつながりもコーディネートできたらと考えている。
・美唄市教委、JAで「農業科」と銘打って学校に農家が訪問して支援している。ぜひ養

護学校も仲間入りしてつながりをもちたい。

- 校長謝辞・閉会